

別紙標準様式（第7条関係）

会議録

会議の名称	第2回 枚方市中学校部活動の在り方懇話会	
開催日時	令和5年8月3日（木）	10時00分から11時30分まで
開催場所	輝きプラザきらら 7階 たまゆらイベントホール	
出席者	小林 博隆 委員 関 輝 委員 草部 正和 委員 南部 潔 委員 萩原 雅也 委員 牧村 剛 委員 渡邊 愛乃 委員 赤井 学 委員 花崎 知行 委員 田中 博 委員 西村 英理 委員	
欠席者	なし	
案 件 名	案件1. アンケートについて 案件2. 持続可能な地域部活動「ひらかたモデル」作成に向けて	
提出された資料等の名称	資料1. アンケートについて 資料2. 部活動の在り方についてのアンケート（教職員用） 資料3. 部活動の在り方についてのアンケート（小学生保護者用） 資料4. 部活動の在り方についてのアンケート（中学生保護者用） 資料5. 部活動の在り方についてのアンケート（地域の方用） 資料6. ひらかたモデル作成にあたって 資料7. 枚方市立中学校及び公共施設等分布図（ブランチ版） 資料8. （事例についての資料）運動部活動の地域移行等に関する実践研究事例集 資料9. （事例についての資料）文化部活動の地域移行に関する実践研究事例集 資料10. （参考資料）中学校学習指導要領における部活動の位置づけ 資料11. （参考資料）第1回「枚方市中学校部活動の在り方懇話会」議事要旨 資料12. （参考資料）（文部科学省通知）「学校の働き方改革を踏まえた部活動改革について」を受けた公立学校の教師等の兼職兼業の取扱い等について 資料13. （参考資料）大阪中体連競技会開催基準要項 資料14. アンケート結果	
会議の公開、非公開の別及び非公開の理由	公開	
会議録の公表、非公表の別及び非公表の理由	公表	
傍聴者の数	—	
所管部署（事務局）	学校教育部 教育指導課	

審 議 内 容

事務局

定刻となりましたので、ただいまから第 2 回枚方市中学校部活動の在り方懇話会を始めさせていただきます。

皆様方におかれましては大変お忙しい中、本会議へのご出席、誠にありがとうございます。

私、本日の進行を務めさせていただきます、教育指導課の伊藤と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

枚方市教育委員会の事務局を紹介いたします。

教育長の尾川 正洋 でございます。

副教育長の岩谷 誠でございます。

学校教育部長の新保 喜和でございます。

学校教育部次長の齋藤 博でございます。

教育指導課長の井手内 太吾でございます。

教育指導課主幹の伊藤 良峰でございます。

教育指導課係長の田中 大登でございます。

教育指導課係長の垣上 祐哉でございます。

以上でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、尾川教育長から、ご挨拶を申し上げます。

尾川教育長

前回の懇話会では活発な議論をいただきありがとうございます。

今回の懇話会の趣旨、視点についてお願いしたいと思い、お話しさせていただきます。まず、視点については大きく3つあると考えています。1点目は、この議論の発端が学校の働き方改革から始まっております。この視点は絶対に外せないかなと思います。2点目は働き方改革といいながらも部活動に関しては、現時点では学習指導要領で教育課程外の教育活動とされていますが、学校教育の一環として、教育課程との関連を図るよう留意するものとされています。それを考えますと自立した社会人の育成という大きな目標につながっていくことは必要になると考えております。

3点目は、2 点目のことを踏まえれば、部活動についても、個別最適で協働的な学びという視点も必要であると考えております。

これらの点を踏まえますと、文科省は当面の方向性として、休日の地域移行と言っておりますけれども、休日の部活動だけを議論していくということではなく、多様な背景を持っている、考え方が様々な生徒が自主的・自発的に参加する部活動。このことを念頭に今後の部活動のあるべき姿、大きな姿を模索していくべきと考えております。

地域移行をするのかしないのかという二者択一の議論ではなく、少子化がさらに進展していくという危機感を持つ中で、持続可能な部活動ということも含めて、今できることを見いだして、やれることには速やかに取り組んでいくというスタンスで議論をお願いしたいと思っております。ぜひご関連なご意見をいただきしたいと思います。働き方改革、少子化、地域移行には様々な観点があると思います。このような複雑な方程式の解を求めるのは困難な問いだと認識していますが、だからこそ有識者の皆様から様々な知見でありますとかご意見をいただきたいと考えておりますので、宜しく

お願い致します。

事務局

それでは、会議に先立ちまして座長の選任を行います。今回の座長は前回に引き続き、大阪体育大学の小林博隆准教授にお願いしたいと思いますが、皆様いかがでしょうか。よろしければ拍手をもってご承認いただきたいと思います。

(拍手)

それでは、本日の座長は小林委員にお願いします。

それでは、以後の進行は小林座長にお願いしたいと思います。

小林委員

それでは、ただ今より会議を始め、私が進行をしてみたいです。皆様どうかお力添えいただきますよう、よろしくお願いいたします。また、皆様には、案件について、それぞれのお立場から、活発なご意見をお願いしておきます。

まず案件の前に、本会議の公開についてと、傍聴者への資料の配付について事務局から説明をお願いします。

事務局

枚方市審議会等の会議の公開等に関する規程第3条に基づき、本会議は公開となっています。本審議会は公開とするとともに、会議録についても公表とし、発言された委員の氏名を公開することになります。

また、配付資料については、傍聴者の閲覧に供するか、配付するよう努めることになっております。今回の会議は非公開情報が含まれていないと考えられます。本会議を公開とし、資料の取り扱いに関して、傍聴者に配布するという点でよろしいでしょうか。

座長からご確認を取っていただきますようよろしくお願いいたします。

小林委員

ただ今、事務局からの説明がありましたが、第2回枚方市中学校部活動の在り方懇話会の資料の取り扱いは、傍聴者に配付するという点でよろしいか。

(意義なし)

では、配付することで決定します。

それでは、事務局から傍聴者の報告を求めます。

事務局よろしくお願いいたします。

事務局

本日の傍聴希望者はございません。

小林委員

ありがとうございます。

では、案件に入ります。「案件1 アンケートについて」について事務局から説明をお願いします。

事務局

それでは、事務局より案件1「アンケートについて」の説明をさせていただきます。

資料1 アンケートについて をご覧ください。アンケートについては、先日、小中学校の教職員用と保護者用のアンケートを行いました。また、9月に地域向けアンケート、10月または11月に児童生徒向けのアンケートを行う予定です。

本日は、教職員向け、保護者向けのアンケートの結果及び、地域向けアンケートの案を示させていただきます。保護者向けアンケートには、前回の懇話会で意見をいただいた指導者の掘り起こしの項目も反映させていただいております。

それでは、資料14 アンケート結果をご覧ください。

資料14 アンケート結果の紹介

また、【資料5】部活動の在り方についてのアンケート(地域の方用)をご覧ください。

地域の方のアンケートは、1. 現在、スポーツ庁・文化庁では、休日(土日、祝日)の部活動の地域以降を令和7年度末までに推進しています。そのことについて知っていますか

2. あなたは部活動を地域に移行するのに、どんな文化・スポーツ活動なら、より満足できるものになると思うか次の選択肢から3つまで選んでください

3. あなたは部活動を地域に移行するのに、解決すべき大きな課題は何だと考えますか。次の 選択肢の中から最も当てはまるものを一つ選んでください

4. あなたは、部活動が参加する大会やコンクールに地域のクラブチームや文化活動団体等が参加することになったらどのように思いますか。次の選択肢の中から最も当てはまるものを一つ選んでください

説明は以上となりますが、この場をお借りしまして第1回懇話会で西村委員からいただいた質問に答えさせていただきます。

西村委員からは、「令和元年から令和4年までで部活動数自体が減少しているかどうか。」というご質問をいただきました。

確認の結果、令和元年度はスポーツ149クラブ 文化65クラブ、令和4年度はスポーツ145クラブ、文化64クラブとなっており、スポーツクラブでマイナス4、文化クラブでマイナス1、理由は主に部員数減となっています。

以上となります。

小林委員

ありがとうございました。ただいま事務局から保護者、教職員向けのアンケートの結果と地域向けのアンケートの案が示されました。これらのことについて、何かご意見・ご質問等ございませんでしょうか。

花崎委員

アンケート結果の回答者数と回答率を教えてくださいませんか。

事務局

教職員用アンケートの回答数は 951 件です。回答率は枚方市内小中学校の教員数は約 2000 人と考えられるので半分程度です。

小学校保護者用アンケートの回答数は1495件、中学校保護者用アンケートの回答数は 1521 件です。回答率は保護者の総数が把握できていないため回答数のみのお答えとさせていただきます。

それぞれのアンケートは引き続き回答を受け付けているので今後も回答数は増えていくことが予想されます。

小林委員

引き続き回答を受け付けているということですが、もしかしたら今回、早くにアンケートにお答えいただいている方は部活動への意識・関心が高いのではないかと感じます。引き続きご意見ございましたらお願いいたします。

田中委員

教職員用アンケートについて 2 点教えてくださいませんか。

1 点目に本アンケートは中学校部活動に関するアンケートですが、中学校教員のみを対象とした回答数や回答率であるのかを教えてくださいませんか。

2 点目に質問項目に「希望する手当について」、「資格が必要であっても関わりたいか」という項目がありますが、その回答割合については、その直前の質問項目である「条件によっては中学校部活動に関わってもよい」と答えた 26.6%の方の内訳になっているのか全体の割合なのか教えてくださいませんか。

事務局

1 点目に関しては、教職員用アンケートは小中学校の教職員対象ですが、小学校教員に関しては質問項目を絞ってお答えいただいています。中学校の教職員のみのは回答は409件です。

2 点目に関しては、「条件によっては中学校部活動に関わってもよい」と答えた先生方の回答やその割合となっています。

小林委員

「条件によっては中学校部活動に関わってもよい」と答えた先生方が追加で質問に答えているという認識でよろしいでしょうか。

事務局

その通りです。

田中委員

「資格が必要であっても関わりたいか」という項目についても「条件によっては中学校部活動に関わってもよい」と答えた先生方の回答やその割合であるのか再度確認したいのと、小学校と中学校の教職員で質問項目が違うということですが、共通する項目を教えてくださいませんか。

小林委員

資格に関する項目の回答・割合についてと小中学校教職員の共通する質問項目について、簡単にわかる範囲で事務局から説明をお願いします。

事務局

資格に関する質問については田中委員のおっしゃる通り、「条件によっては中学校部活動に関わってもよい」と答えた先生方の回答やその割合です。小中学校教職員で共通する質問項目についてですが、現在の部活動に関する質問項目は中学校の先生方にのみお答えいただいております。今後、部活動が地域移行していく中での課題やその指導に関わりたいかなど現在の部活動以外に関する質問項目については小学校の先生方にもお答えいただいております。

小林委員

その他ご質問等ある方はいらっしゃいますか。

草部委員

9月ごろに実施予定の地域の方用のアンケートについて、対象の範囲や選定基準が分かれば教えていただけますでしょうか。

事務局

現在検討しているのは、地域のスポーツに関わっている方々や文化生涯学習センターで文化活動に関わっている方々に直接お願いをする。それと広報ひらかた等にQRコードを載せて広くお願いをするという3つの対象を考えています。

小林委員

事務局に確認したいことがございます。今回アンケート結果についてはお伝えいただきましたが、特徴的な結果が見られた項目はありますでしょうか。それをお伝えいただければ、我々も懇話会における特段の検討事項と考えることができますので、そういった特徴的な項目があれば教えてくださいませんか。

事務局

「部活動指導協力者を週に何回活用していますか」という項目において、66.2%の教員が部活動指導協力者を全く、あるいはほとんど活用していないと回答しています。部活動指導協力者を活用していないということは教員自身が部活動の指導をしており、多くの教員が自身で指導されているという現状は特徴的な項目であると考えています。

また、「部活動に係る業務の負担感について」という項目においては負担に感じている教員が79.1%おり、その要因として「土日・祝日にゆっくり休めない」「専門的な指導ができる部活ではない」「教材研究に支障がでる」が多くあげられています。

また、保護者向けアンケートにも同様の項目がありますが、土日・祝日の部活動が地域に移行したとき、その指導に関しても良いかという質問は注目すべき項目と考えています。教職員では26.6%、小学校保護者では14.6%、中学校保護者では16%が関わっても良いと答えています。今後の検討事項に関連する項目として、中学校保護者アンケートにおいて費用負担について質問している「平日の部活動に加えて費用がかかるとしたら、どのくらいが望ましいですか。」に対する回答は50%以上の方が1000円以下としています。1001円から2000円以下も11.5%、2001円から3000円以下も13.7%いらっしゃいます。先行実施している自治体においても費用負担については議論になっています。

関委員

根本的な問題として、部活動というのは教育の一環で、普段教室で集まっている生徒たちが、学級や学年を越えて関心のある活動に集まり、自分たちで考えたり、アドバイスをしたりすることに教育的意義があると思っています。サッカーならサッカーでただ集まって活動すれば良いというものではなく、学校の代表として勝ち負けも大切だと思いますが、上手い下手に関係なくどうやって共に活動すれば良いのかを考え、それを先生方が手助けしてきたから教育的意義があったと思います。先生方の土日の指導は大変だと理解していますが、地域に任せてしまうと勝てるチームを探すようになってしまい、本来の意義やあるべき姿が失われる方向に進むのではないかと懸念しています。

私が指導しているスポーツ少年団には勝ち負けだけではないと指導しています。地域移行したときに強い学校だけが注目されるような勝利至上主義とならないような方法を考えてほしいと思っています。先生方も忙しいでしょうから地域移行していくのは良いと思いますが、教育の一環であるということを念頭において進めてほしいです。

小林委員

部活動を地域に移行するにあたって、これまでの部活動の位置づけや在り方の中でも引き継いでいける部分と引き継げないかもしれない部分とが混在していると思います。それは文化部においても同様だと思います。人材や専門性の不足をどのように補っていくかという点において地域の人材の掘り起こしも必要でしょうし、移行の方法も大切だろうと考えています。今回、学校関係者の方もご参加いただいておりますがその点でご意見があればいただきたいと思います。

田中委員

保護者や地域は、学校の部活動に期待を持っています。しかし、学校教員は期待に答えるだけの専門性がなく、教育課程ではないことなのに期待が大きいという板挟みになっていることが負担に感じる原因だと思います。学校教員は期待に答えるだけの専門性がなく、教育課程ではないことなのに期待が大きいという板挟みになっていることが負担に感じる原因だと思います。枚方市は部活動に関して通学区域制度の弾力的運用を行っていて、生徒の住所が校区である中学校に希望する部活動がなければ、通学区域外の近隣の中学校に通えるようになっています。地域に丸投げするような形ではなく、この制度をベースにすれば、部活動が強い学校が選ばれる側面はあるかもし

れませんが、人間関係を学ぶという面も残っていくのではないのでしょうか。一長一短があり、簡単にイエス・ノーが判断できるような方向性を定めるのは難しいのではないかと思います。先生方の中には部活動との関りをなくしてしまうことを求めている方も多いと思いますが、それも現実的ではありません。私は通学区域制度の弾力的運用を行っている枚方市だからこそできる方法があるのではないかと思います。

牧村委員

枚方市が目指しているのは土日・祝日のみを対象とした地域移行なののでしょうか、その後に平日も含めてすべてを地域に移行しようとしているのでしょうか。アンケートは土日・祝日の地域移行についての調査になっていますし、第1回の懇話会の時から、どちらかはっきりしていないように思います。枚方市の方向性を教えていただけますでしょうか。

小林委員

まずは土日・休日の地域移行から、ゆくゆくは平日も含めた地域移行を進めていこうというのが国の方向性であろうと考えています。地域の実態に応じて、できるところから土日・祝日の地域移行をスタートしようとしている状況ではないかと思います。この点について事務局から補足はございますでしょうか。

事務局

国の方向性を踏まえ、まずは土日・祝日の地域移行からと考えております。しかし平日の部活動の地域移行と切り離して考えているわけではありません。どのような部活動の在り方が将来的に子供たちにとって、より良いものとなるのかを平日の部活動の地域移行のことも見据えたうえで、まずは土日・祝日の地域移行の実現を目指しております。

小林委員

この点につきましては案件2に繋がる部分だと思います。それでは、案件2「持続可能な地域部活動「ひらかたモデル」の作成に向けて」に移ります。先ほど示されたアンケートの結果も踏まえて考えていく案件かと思えます。それでは、事務局から「ひらかたモデル」の作成に向けての説明をお願いします。

事務局

それでは、案件の説明に先立ちまして、部活動の地域移行を考える上で参考となる映像がありますので、スポーツ庁が出している部活動の地域移行に関する映像を皆さんにご覧いただき、イメージの共有をしたいと思います。

それでは、【資料6】「ひらかたモデル」作成にあたってをご覧ください。

まずは、地域部活動のめざす姿としまして「少子化の中でも、将来にわたり枚方市の子どもたちがスポーツ・文化に継続して親しむことができる機会を確保すること、および地域の持続可能で多様なスポーツ・文化芸術等に親しむ環境を一体的に整備し、子供たちの多様な体験機会を確保することとなっております。このことを達成するために、事務局としましては、他市町村の事例も参考に

しながら、「ひらかたモデル」を模索する中で、①～③までの4つの案をあげさせていただきました。この4つの中の1つまたは複数を選ぶのか、複合型を目指すのか、それとも第5第6の案が挙げられるのかというところはございますが、まずは議論のベースとしまして、4つの案をご紹介します。

まずは、①授業の「延長型学校部活動」です。

これを①としている理由は、部活動の在り方を考えるうえで、これ単独ではゴールとなりえず、次からの①～③と必ずセットで考える必要があることから、他との差別化を図るために①としております。

このモデルは、学校が終わった後、例えば毎日30分から60分もしくは、週1回1時間などという、授業の延長や教職員の勤務時間内で生徒のスポーツ、文化に親しむ機会を確保するために行う部活動です。今の部活動よりも気軽にという意味では、ゆる部活ともいえるかもしれません。細かく競技に分けるのではなく、様々なスポーツや文化芸術に親しむ機会を確保するものとして、「総合スポーツクラブ」「総合文化クラブ」という枠での活動も考えられます。このプランにつきましては、学校主導となるため、学校により実施する、しないの判断やする場合の頻度や形態については、学校判断となることが想定されます。今後、この点についても、別途ご意見をいただく時間を取らせていただきたいと思います。

次に ①統括団体によるクラブ運営型地域部活動です。

統括団体が、WEBサイトなどを活用してプラットフォームを作り、そこで指導者の募集をし、人材バンクを設立します。指導者への研修も統括団体が行います。また、同時に、生徒の参加希望者も募集します。統括団体は、学校などの施設を活用して、地域クラブチームを立ち上げ、指導者を派遣し、参加希望の生徒に指導をします。外部のスポーツ団体、も団体として人材バンクに登録可能で、スポーツ団体としての協力もできるという形を想定しています。また、統括団体は、自身が設立した地域クラブ間での大会を実施します。千葉県柏市では、すでにこうした形をとっており、8月に体験会、9月から体制の整ったクラブから土日に限り順次移行していくということです。柏市には、先日お話を伺ったところです。

次に②学校部活動・地域部活動組み合わせ型です。

学校の枠組みを維持し、土日の活動のみ、地域部活動として、外部の指導者が行う形式です。学校ごとの枠を外し、拠点校方式でいくつかの学校が集まってくるという方式も考えられます。ただし、土日を部活動指導協力者だけにすると、責任の所在が不透明になるため、会計年度任用職員である部活動指導員の雇用などが必要となってくると考えられます。自治体によっては、岐阜市のように保護者クラブが中心となって、指導・見守りを行っている保護者会方式を実施しているところもあります。岐阜市にも先日お話を伺ってきたところです。岐阜市は、地域的に総合型スポーツクラブも備えており、22中学校中3中学校が総合型スポーツクラブ、19中学校が保護者クラブ形式で行っているということです。

続いて、③自由体験型 地域部活動です。

大学などの既存の組織を活用して、気軽に体験できるクラブ活動を土日に設立する形です。関西外国語大学・大阪工業大学、摂南大学など、大学が複数ある枚方の強みを活用したり、懇話会でも意見のた公民館活動が盛んな枚方ならではの生涯学習センターで活動する人材を活用したりしながら、平日は他のスポーツ・文化活動をしている生徒が、様々な体験をできる場を提供すると

いう形式です。部活動ではあまり見られない、スケートボードなどのアーバンスポーツやプログラミング、ジャグリングなど、多様な選択肢の入り口を作ることでもできるのではないかと考えています。大学のクラブなどと連携して行うことも考えられます。

この4つのモデルを、技術指導力を縦軸に教員の関与を横軸にした座標軸で表すとこのようになっています。④は、学校に残るといってこのポジションにしております。そして①～③は、このようなポジションです。

①は教職員の負担はなく、技術を持った指導者が指導をするので、技術指導力も中程度といえます。②は、学校を活用すること、教職員の関与も一定の残ると考えられることから、このポジションにあります。③は、様々なことを体験してもらう場として、教職員の関与は必要ないですが、技術指導としては、差が出てくると考えられます。

また、次の図には、それぞれのモデルを「生徒の希望」「活動場所」「指導者」「費用負担」に分けて整理した案を掲載しています。今後、「活動場所」「指導者」「費用負担」についてはあくまで案ですので、改めて協議が必要だと考えています。

また、最後のスライドでは、市内の中学校を5つに仮に分けた場合の分布図となっております。今後、試行実施や地域移行を進めるにあたって、地域の塊で考えていくことも想定されるため、5つのブランチとして一旦整理してみました。

また関連資料としまして、【資料8】スポーツ庁から出された「運動部活動の地域移行等に関する実践研究事例集」と【資料9】文化庁から出された「文化部活動の地域移行に関する実践研究事例集」を委員方の後ろのお机に置かせていただいております。

小林委員

本会は懇話会ということもあり、皆さんの意見や考え方を幅広く聴取する場となっております。第1回の懇話会でもあったように、今年度中に施行実施を行い、来年末には一定、「ひらかたモデル」をかたどる素案を作成する計画となっております。枚方の子どもたちが将来にわたり、スポーツ・文化に継続して親しむことができる機会を確保するためにどうしたらよいかという観点でご意見をいただければと思います。今回事務局は、他市町村の事例も取り入れながらいくつかのモデルを示しています。4つのモデルのどのモデルが枚方にふさわしいのか、もしくは複数のモデルを組み合わせるのか、それとも全く新しいモデルをつくるのか。いずれにせよ、枚方の子どもたちのために、活発な議論を展開していきたいと思います。

小林委員

事務局に質問がございます。「ひらかたモデル」のたたき台として0～4番のモデルが示されていますが、土日・休日の地域移行を考えるうえで、平日に関する0番のモデルは除外し、1～3番のモデルについて議論を進めていってよろしいでしょうか。

事務局

0番については先々の平日の地域移行のことも見据えた暫定的なモデルですので、土日・休日

についての議論の際は除外していただくのが適当だと考えています。

牧村委員

中学校体育連盟(以下、中体連)が主催している大会が土日・祝日にあると思いますが、その土日・祝日を地域移行すれば中体連の人件費等の費用が削減され、その分をこの地域移行に掛かる費用に充てることになるという認識でよろしいでしょうか。

小林委員

事務局から回答できる内容がございますでしょうか。

事務局

中体連の大会参加規約が地域クラブも参加できるように変わっており、このまま中体連主催の大会は存続していくものと思われま。大会が存続していくことから予算は変わらない為、今回の地域移行においては、中体連の大会運営経費については影響がないものと考えております。

牧村委員

中体連の大会運営経費以外の部分で予算が削減できるということでしょうか。

田中委員

中体連主催の大会に出場するために、学校部活動から地域移行した地域クラブが中体連に加盟する際には登録費用がかかり、これは地域クラブが負担することになります。

牧村委員

部活動の競技によっては難しいと思いますが、「ひらかたモデル」の地域移行ということで中体連主催ではない枚方独自の大会をつくることも考えられるのではないのでしょうか。

小林委員

この件については様々な課題があり、非常に複雑な問題だと考えています。今回は土日・祝日の地域移行ですので、大会の引率は平日に指導をしている教職員が行うのか、土日・祝日の指導者が行うのか、その立場は学校部活動とするのか地域クラブとするのかも考えなければいけない課題だと思います。また、今年度から中体連の大会に地域クラブが参加できるようになってきました。その中で色々な種目で課題として挙げられているのが、地域クラブの方々が大会運営に関与できていないということです。先生方が中心となって運営している中体連の大会に地域の方々が関わっていく為には、中体連の体制を地域の方々も含めたものにすることが必要になっています。中体連と部活動を切り離すことはできませんので、中体連の動きも変わっていかなくてはならないでしょうし、色々と提言していかなければいけないだろうと考えております。

南部委員

毎年、部活動に関する生徒の在籍調査が府教育委員会、市教育委員会を通じて行われていると思うのですが、1番と3番のモデルにおいて、学校は在籍生徒の所属団体や参加状況について

はどのように把握するのでしょうか。例えば資料では 1 番のモデルでは参加生徒の登録も含めてすべて統括団体が行うことになっています。生徒によっては途中退部・入部もあるでしょうし、学校はどのように関わって把握していくのか教えていただけますでしょうか。

事務局

1 番のモデルで実施している柏市の実践事例でお伝えいたしますと、柏市教育委員会事務局は把握しているようですが、学校が把握しているのかについては聞き取れておりません。枚方市教育委員会事務局としては学校の関わり方についても検討事項だと考えております。

小林委員

1 番と2番のモデルについては在籍者の情報は共有しやすいと考えられますが、3 番のモデルについては個人で参加するという形態にするのかという点も検討する必要があると思います。色々な立場からのご意見を伺いたいと思いますので皆さん他にご意見ございませんでしょうか。

花崎委員

私は枚方市中学校体育連盟の会長をさせていただいています。先程の質問の中で中体連の予算のお話がありましたが、枚方市中体連では人件費が発生しておりません。詳細は別の機会に整理してお話できればと思います。中体連の大会業務に関する事で、2 番のモデルですと平日の部活動と土日の地域クラブのどちらの所属として大会に出場することになるのかは懸念される点です。また平日と休日で活動団体が変わることでチームプレー等の連動性をどのように持たせていくのか、これは団体競技で特に発生しやすい問題だろうと思います。

私自身、学校教育の中で部活動というのは大変に意義があるものと考えてきました。地域移行していく中でいろいろな課題に対し、バランス良く解決を図るというのは当然であり、教員や地域の方について考えることも大事ですが、生徒にとって教育的にどういう形が望ましいのかを中心に据えて考えるということはぶれてはいけないと思っています。表面的に1~3のどれが良いかと判断できるような問題でもなく、簡単には結論が出ないので時間をかける必要があると思います。学習指導要領に記載されている部活動の意義にも、この会の中で話し合うことができる機会があれば良いと思います。

小林委員

中体連の実態についてもお話いただきありがとうございます。また、手持ち資料に記載されていないことにつきましても引き続き補足していただけると助かります。

西村委員

土日・祝日だけでなく、平日の生徒の活動場所も考えていかないといけない。しかし現状の形態では難しいのは前回の懇話会でもお話しさせていただきました。先生方の業務量は増えていっており、授業準備・評価に関する業務だけでも勤務時間を越えてしまいます。今の先生方は私が授業をしていた頃と比較すると桁違いに業務が多いです。事前にしっかり考えて授業準備をする必要があります。それに加えて教員には残業代が支給されません。土日の部活動については、部活動手当というものがありますが、時給に換算すると最低賃金を割ってしまうような金額で、かつ先生方の負

担感も大きいです。そういう状況の中で、平日の生徒の活動場所の確保という観点ではOモデルは良いと思います。週に数回、勤務時間内で生徒がスポーツ等に親しむ時間と場所を保証できるのではないかと思います。土日・祝日の地域移行だけの話ではなく、部活動全体の話をする必要があると思います。学校が全く関わらなくなり、平日の活動をなくしてしまう方向に進むのか。また、平日のみ参加している生徒は土日・祝日の大会には参加できないのか。こういったこともある程度決めておかないと地域移行に対して多くの人の理解を得られないんじゃないかと思います。1番のモデルで実施している柏市は、平日の活動時間や平日にのみ参加している生徒の大会参加についてどのようになっているのか気になります。

小林委員

柏市の活動実態について、休日についてはイメージがつきやすいと思いますが、平日の活動について、また大会参加について、現地調査の中で分かった範囲で事務局から説明をお願いいたします。

事務局

柏市は、まずは休日の地域移行を目指しており、平日の活動は従来通り週4回程度行っていると聞いております。大会に関しては基本的には学校部活動として顧問の先生が引率していますが、今後は所属地域クラブで参加できる地域の大会を統括団体が別途立ち上げる方針だと聞いています。柏市も完成形ではなく、今後も引き続き子どもたちにとって良い形を平日も含めて検討していくと聞いています。

牧村委員

現状、顧問の先生が土日・祝日に部活動の指導を行った場合の部活動手当の金額を教えてくださいませんか。保護者代表として参加させていただいておりますが、先生方の金銭的な事情というのが分かりかねますのでデータとして提示していただけると分かりやすいと思います。

小林委員

部活動の休日の手当について、現状どのようになっているのか事務局から説明をお願いいたします。

事務局

教職員の部活動の手当は2時間以上4時間未満1800円、4時間以上3600円となっております。

関委員

活動単位を中学校毎ではなく5つのランチに分けている意味は何か教えてくださいませんか。活動したい部活動が校区の中学校にない子たちが拠点校に行って活動できるようにすることがねらいのように思いますが、今までだと中学校単位で試合に出ていましたが、枚方市はこのランチごとに大会に出場することになるのでしょうか。

小林委員

5つの地域ランチが示されています。休日はこのランチを基本として練習に励むことになると思いますが、大会参加の扱いはどのように考えているのか、事務局から説明をお願いします。

事務局

学校単位では生徒の参加人数が少ない部活動がランチで集まって活動したり、生徒が校区の中学校にない部活動に参加するという選択肢を増やしたりすることができる、考え方の一例として挙げさせて頂いております。大会参加については、現在も合同チームとして大会参加が認められる競技・大会もあると聞いておりますので、今後の方向性なども見ながら検討していきたいと考えております。

関委員

子どもが参加しやすいという意味ではいいモデルだと思います。

萩原委員

0番は昔行われていた必修クラブみたいなものなのかなと感じました。私が教員になったとき担当したのですが、全校生徒が授業時間に週1~2時間、何らかのクラブに入り、活動する時間でした。全先生で分担し、全く経験のない競技でも指導しなければならず大変だった記憶があります。文科省が必修クラブを作った、あるいはなくした経緯を振り返ってみれば体験型クラブ活動の意義や課題も見えるのではないのでしょうか。

教育に対する考え方の転換が必要になっていると思います。学校教育の意義を学校教育だけで担う時代ではなくなってきています。地域が一体となって教育機能を果たす為に、必要な変革の一環であると考えないといけないと考えています。単に先生方の働き方改革で土日・祝日の部活動を地域に移行しますというだけでは持続性がありません。これまで学校が持っていた教育機能の一部を地域が代替して果たすための部活動の地域移行であると考えれば持続性があるのではないのでしょうか。先生方も考え方を変えなければいけないですし、地域の方の責任も大きくなるので協働的に学校教育を担えるようになるには時間がかかるでしょう。それでも真の意味での持続可能性を持つためには必要だと思います。

私は0番から3番まで全部一体型で実施できるのではないかと考えています。例えば地域統合型のクラブが使用する場所で地域の大学サークルや先駆的な競技クラブの体験を行ったり、統合型のクラブのスタッフが学校に来て、体験活動を行ったりもできるでしょう。地域によってはダンスが盛んであるなど、特徴的な文化活動があることもあり、地域資源によって活動に濃淡があってよいと考えます。地域の特色に応じてランチ別に2番の形での運営もできるでしょう。いずれかのモデルを選ぶというより、良いところをとって「ひらかたモデル」を作る方が建設的だと思います。

枚方市は全国と比較しても公民館活動が盛んで、社会教育や市民活動の場の資源の蓄積がありますので、それを生かして0~3番を組み合わせた「ひらかたモデル」を作ることができないかと思っています。

小林委員

かつて中学校では必修クラブというものがありました。当時のことを知らない先生方もいっしょ

るでしょうが、今後の「ひらかたモデル」を考えるうえで、参考になるかもしれません。また、運動部についての意見が多く出ましたが、文化部も含めて広く考えた場合、公民館活動や地域コミュニティの特色を資源として生かせるのではないかという意見を頂きました。運動部・文化部含めた幅広い視点で忌憚のないご意見を頂戴できればと思います。

田中委員

2番のモデルが現状に最も近いと思います。今後は土日・祝日の活動は学校主体ではなくしてしまい、例えば先生が指導するのなら文化系も含めて、兼職兼業という扱いになるでしょう。それと並行して1番の統括団体や3番の大学サークルが受け皿をつくる。枚方では土日・祝日にはどこで、どんな活動が行われているのかを生徒・学校に示せばよいのではないのでしょうか。アンケート調査では、保護者のニーズは専門的な指導にあるという結果が出ておりますので、顧問の先生が専門的な指導ができ、学校部活動のチームで活動させたいという思いがあるのなら土日・祝日も指導してもらえば良いですし、専門的な指導ができなかったり、負担に感じたりしている先生は大会の引率は必要ですが、土日・祝日の指導は地域に任せ、生徒が専門的な指導の下で活動して得たものを平日の活動にも生かしてもらえば良いと思います。1つの種目の活動場所が枚方市内に5か所あれば、近くの場所に行くのか土日・祝日は休むのかは保護者や本人に任せれば良いですし、いきなり土日・祝日の部活動をなくしてしまうのではなく、まずは多くの受け皿を用意し、生徒の受け入れ態勢ができた種目から先生方の土日・祝日の指導を軽減していくことが現実的だと思います。

小林委員

0~3のモデルをどう組み合わせていくのかということと、一律にスタートというよりもできる種目、団体からスタートしていくということも大切になってくるかと思います。

赤井委員

スポーツ庁の部活動の地域移行に関する動画も観させていただきましたが、人の善意を当てにして予算を出さないという施策はいかかなものかと感じております。持続可能と謳ってはいますが予算がないのでは持続できないのではないのでしょうか。先ほど校長先生からもありましたが、私たちが教員であったときより圧倒的に業務量が増えました。その頃も、土曜日は半日授業を行い、午後は部活動を指導しました。日曜日は半日、練習を指導することもあれば、大会の引率をすることもあり、休日がない状態が長い間続いていました。このように、これまで部活動が頼ってきた善意とは、教員の身体的・時間的・金銭的な犠牲を伴っていました。その犠牲の下で成り立っていたものを地域に移行するのに予算を示さないというのは問題があると思います。前回配布していただいた文部科学省の資料の中にも生徒・保護者の負担にならないように会費を徴収するとありましたが、現在も部活動を行うに当たって必要な備品の購入代等の最低限の徴収はしています。よって、この会費というのは指導員の報償費や施設運用費となるのだと思いますが、その予算はどこからも出さずに保護者や生徒に負担をさせるという考え方に憤りを感じます。

また、自身が指導員になったときに危惧していることが2点あります。1点目は地域部活動の実施主体は一体どこになるのかということです。生徒や指導者にトラブル・事故があったときの管理責任はどこに求めることになるのでしょうか。私は現在、枚方市の部活動指導協力者なので管理

責任は枚方市教育委員会にあるでしょう。地域移行するなら、個人では対応できないような事故や身体的な、または人間関係によるトラブルがあった場合の責任主体を明確にする必要があると思います。2点目は前回の懇話会でもお話ししましたが、平日の部活動と休日の活動団体との連携についてです。生徒は全人格的に見てあげないといけません。私が教員を退職して部活動指導協力者になったとき、最も痛切に感じたのは日頃の生徒の状態が分からないことです。現在は指導に行ったときには顧問がおりますので、練習を休みがちな生徒の状況など普段の様子を逐一聞くことができています。地域移行がどのような形になったとしても全人格的な情報共有が必要であると思います。

もう1点、気になることがあります。具体例を挙げると、山田中学校区の生徒が通学区域制度の弾力的運用を利用して、第一中学校に通い、第一中学校の生徒として学校生活を送り、吹奏楽部の活動にも参加しています。地域移行で土日・祝日に地域の吹奏楽クラブに参加できるようになって、弾力的運用が利用できなくなったとしたら、このような生徒は、土日ならば活動できますが、平日は部活動も楽器も存在しないので活動ができなくなります。このような問題はどのモデルであっても起こると思います。平日の部活動に土日・祝日に参加している種目がない生徒への手立てはどのようなのでしょうか。

小林委員

今後、地域に移行していく上での課題だと思います。どの点についても議論を深めていかないといけないだろうと思います。実施主体や責任の所在はどこにあるのか。これまで単一の学校の中で行われていた部活動が、複数の学校が関わることになりますと活動範囲も広がります。また土日・祝日と平日で指導者が異なることでその連携や生徒への配慮も必要になりますし、平日の出来事が休日のトラブルにつながることもあるでしょうから、平日と休日の活動を安易に切り離すことも難しいと感じております。懇話会の終了時刻も近づいてきております、委員の皆様方、何かお気づきの点がございましたら発言を頂きたいと思います。

牧村委員

教職員アンケートにある部活動指導協力者を週に何回活用していますかという質問で、2~5回と回答している方々を合わせると十数%ありますが、どうやって協力者を選んでいるのか、どのように運営しているのか、特定の部活に偏りがあるのか、保護者はどのように感じているのかが分かれば参考になるのではと思います。

小林委員

枚方市全体のアンケート結果から見ても、外部指導者の登用という部分にはまだまだ課題があるだろうと思います。部活動指導協力者から今後は部活動指導員として1人の指導員が責任をもって大会の運営までできるような仕組み作りが大切になってくるだろうと思います。どのようにすれば部活動の地域移行が進んでいくのか、子ども達の為に何ができるのか、先生方の負担を減らすことができるのか、私たちも知恵を絞り、提案して実証していかなければいけないと思います。

ご質問等ないようでしたら、ここで締めさせていただきますと思いますがよろしいでしょうか。それ

では、これで案件はすべて終了しましたが、事務局から何かありますでしょうか。

事務局

今後の懇話会ですが、11月、2月に開催を予定しています。必要があれば、別途臨時会として、開催させていただく可能性もございます。

そして、来年度は、いただいたご意見等を集約したうえで、方針を枚方モデルとして策定していきたいと考えています。

小林委員

ありがとうございます。

ご意見、ご質問等はございますか。

特にないようでしたら、これで本日の懇話会を終了します。

皆さま大変お疲れ様でした。ありがとうございました。

以上